

【九州大学大学院芸術工学府 芸術工学専攻 環境・遺産デザインコース】
(2021年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

＜修士課程・博士後期課程＞

環境・遺産デザインとは、人間と環境の共生という理念にたち、人間が過去から受け継ぎ未来へ手渡していく資産(=環境・遺産)の価値を自然と文化の持続性・多様性から学び、未来の地域と生活環境を創造していく営みである。本コースでは、大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザインの担い手として、次のような総合的な研究能力とデザイン能力を備えた人材の育成を目指す。

- 1) 国内外の地域をフィールドとした実践的な教育を体験することによって、多様な環境・遺産の価値評価能力を持ち、環境・遺産デザインの国際ネットワークを支えることができる。
- 2) 環境・遺産の価値を評価・保護・継承するための専門性と将来の遺産となるべき建築・景観・社会システムをデザインする専門性を習得し、環境・遺産マネジメントを支えることができる。
- 3) 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術を習得し、空間的な調和と時間的な視野を持って環境デザインを支えることができる。

なお、修士課程においては、[グローバル・アーキテクト・プログラム]を提供し、国際的建築家資格に対応したJABEEの建築系学士修士課程プログラム(環境設計プログラム)として、建築・環境設計に関する工学的知識及び文化芸術に関する知識を備えた、総合的設計能力を有する人材を育成する。

博士後期課程においては、国内外において環境・遺産デザイン分野における指導的役割を果たし、大学や研究所等において新たな人材の育成も担うことができるような、国際的水準の卓越した教育研究能力を持つ環境・遺産デザイナーの育成を目指す。

具体的には、以下の学修目標を達成し、所定の修了要件を満たした者に、修士(芸術工学)、博士(芸術工学)、博士(工学)の学位を授与する。

参照基準

＜修士課程・博士後期課程＞

日本学術会議分野別質保証参照基準 土木工学・建築学分野、地域研究分野、歴史学分野、農学分野を参照。

【土木工学・建築学】

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野

【地域研究】

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 地域研究分野

【歴史学】

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 歴史学分野

【農学】

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 農学分野

国際参照基準

＜修士課程＞

- ・日本技術者認定機構、日本技術者教育認定基準 共通基準、2019
- ・日本技術者認定機構、日本技術者教育認定機構、個別基準、建築系学士修士課程プログラムにおける勘案事項、及び建築設計・計画分野の学士修士課程プログラムに関する分野要件、2019
- ・UNESCO-UIA 建築教育憲章 (UNESCO-UIA Charter for Architectural Education)

<博士後期課程>

修士課程よりも高度な水準の学修目標を設定する。

到達目標

<修士課程>

A. 主体的な学び・協働

- A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。また、それを解決すべく自主的・継続的に学習を進めることができる。
- A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、チームの一員として他者と協働し、自らの専門性を発揮しながら問題解決にあたることができる。
- A-3. (コミュニケーション) 論理的な文章表現力、口頭発表能力、及び討議力を持って、効果的に情報を発信し、吸収することができる。

B. 知識・理解

- B-1. 環境・遺産を構成する自然と文化の持続性・多様性等の価値評価に関連する知識を理解し、その理論や概念を遺産理論として説明することができる。
- B-2. 環境・遺産の価値を評価・保護・継承するための専門性と地域環境の価値となるべき建築・景観・社会システムのデザインに関する知識を理解し、その理論や概念を環境・遺産マネジメントとして説明することができる。
- B-3. 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術に関する知識を理解し、その理論や概念を環境デザインテクノロジーとして説明することができる。

C. 能力

- C-1. (適用・分析) フィールド調査、資料調査、データ調査、実験、シミュレーション等を通して必要な情報を収集し、適切な分析を施したうえで、その成果を適用することができる。
- C-2. (評価・創造) 「環境・遺産」の現状や課題を示す個々の要素の分析から得られた情報を統合し、本質的価値の評価に基づき、生態的・空間的に調和した、過去・現在、将来という時間的な視野から持続可能な環境デザインの計画・設計・提案を行うことができる。

D. 実践

- D-1. 環境・遺産を評価・保全・活用し、未来へ手渡す環境の価値を技術によって向上させ・創生する営みとしての高次のデザイン活動が社会に及ぼす影響を常に考慮しながら、社会に対する責任と倫理観を持って環境・遺産デザインに取り組むことができる。
- D-2. 大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザイナーとして活躍しようとする事ができる。

<博士後期課程>

A. 協働・コミュニケーション

- A-1. (協働) 多様な知の交流を行い、チームの一員として他者と協働し、自らの専門性を発揮しな

から問題解決にあたることができる。状況に応じて、統率力と実行力を持ってリーダーシップを發揮することができる。

A-2. (コミュニケーション) 論理的な文章表現力、口頭発表能力、及び討議力を持って、国際的な文脈においても効果的に情報を発信し、吸収することができる。

B. 知識・理解

環境・遺産を構成する自然と文化の持続性・多様性等の価値、価値を評価・保護・継承するための専門性、地域環境の価値となるべき建築・景観・社会システムのデザイン、そして、人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術に関する知識を理解し、その理論や概念を、高度な専門性を持って、他分野の専門家や一般社会にとっても分かりやすいことばで説明することができる。

C. 能力

C-1. (適用・分析) フィールド調査、資料調査、データ調査、実験、シミュレーション等を通して複合的な情報を適切に収集・分類・整理・分析し、その結果を学術的な知見の上に考察し、結論を論述することができる。その成果を、学術論文に取りまとめ社会に発表することができる。

C-2. (評価・創造) 「環境・遺産」の現状や課題を示す個々の要素の分析から得られた情報を統合化し、本質的価値の評価に基づき、生態的・空間的に調和した、過去・現在、将来という時間的な視野から持続可能な環境デザインの計画・設計・提案を、高度に行うことができる。

D. 実践

D-1. 環境・遺産を評価・保全・活用し、未来へ手渡す環境の価値を技術によって向上・創生し、といった高次のデザイン活動が社会に及ぼす影響を常に考慮しながら、社会に対する責任と倫理観、および国際的視点を持って環境・遺産デザインに取り組み、芸術工学の分野におけるイノベーションに貢献することができる。

D-2. 大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザイナーとして、先導的立場で活躍しようとするすることができる。

2) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表 (カリキュラム・マップ) の通り、教育課程を編成する。

【コースワーク】

<修士課程>

環境・遺産デザインコースは、主に講義型の選択科目として遺産理論講座、環境・遺産マネジメント講座、環境デザインテクノロジー講座の科目群、そして、主に演習型の選択科目としてコース内共通科目の授業を行う。学生が履修する講義科目は所属する講座に加え、他の2講座からも履修することが求められ、専門を深めることに加え、環境・遺産に関する専門を広く修学することが求められる。コース内共通科目では、環境・遺産デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱによる修士研究の展開に加え、PBL科目である環境・遺産デザインプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲという実社会のフィールドや問題などに焦点を当てた調査・計画・設計・提案、また、データの分析手法に関する演習等を履修する。これらの科目群の修得を通して環境・遺産デザイナーを育成する。

各講座では、次の講義科目を提供している。

- ・環境理論講座：自然・森林遺産論、田園・都市景観論、都市・建築遺産論、芸術・文化環境論、国際文化遺産保護法、メディア環境思想特論、文化政策特論

- ・環境・遺産マネジメント講座：ランドスケープマネジメント、都市・建築遺産マネジメント、ツーリズムマネジメント、持続社会マネジメント、国際協カマネジメント、ヘリテージ・マネジメント、アジア近現代建築論、デザイン教育マネジメント、国際環境政策評価論、ストラテジックプロジェクト史、プロジェクトマネジメント、アートマネジメント特論、森林景観生態学特論
- ・環境デザインテクノロジー講座：生産システムデザイン、防災システムデザイン、デザイン心理評価法、統計工学特論、環境化学特論、地域熱環境工学、建築デザイン、次世代建築空間、次世代都市空間

さらに実践的な人材育成として、グローバル・アーキテクト・プログラムの修了を目指す学生は、学生便覧の記載にあるように演習を中心とするスタジオ科目群からグローバル・アーキテクト・プロジェクトを含む3科目以上、講義を中心とするコア科目群、そして、インターンシップ科目群から規定された単位に相当する科目数の修得を行う。

将来、1級建築士資格の取得を目指すものは、免許登録要件として国土交通大臣の定める建築に関する実務のうち、“大学院における実務の経験、1年”に該当する要件を満たすには、建築設計インターンシップ、環境・遺産デザインプロジェクトⅡ、そして、5つの講義科目（生産システムデザイン、防災システムデザイン、素材システムデザイン、都市・建築遺産マネジメント、都市・建築遺産論）のうち4科目以上の履修が必要である。

これらの多くの修学を通して、より実践的な環境・遺産デザイナーを育成する。

<博士後期課程>

環境・遺産デザインコースは、主に講義型の選択科目として遺産理論講座、環境・遺産マネジメント講座、環境デザインテクノロジー講座の科目群、そして、主に演習型の選択科目としてコース内共通科目の授業を行う。博士後期課程の学生は独自開設科目として開設される、博士研究等に関わる演習科目である、環境・遺産デザイン特別研修、環境・遺産デザインプロジェクト研究、そして、環境・遺産デザイン特別研修Ⅲの修得を主に行う。

講義科目については、修士課程・博士後期課程共通開設科目より、研究テーマに関連する授業科目の修得を行う。これらの科目群の修得を通して、理論と実践に通じた高度な環境・遺産デザイナーを育成する。

【研究指導体制】

<修士課程>

遺産理論講座、環境・遺産マネジメント講座、環境デザインテクノロジー講座の教員が、それぞれ研究室を有し、研究室に所属する学生の指導を行う。共同指導体制として、修士2年の秋学期に中間発表会を行い、コース全教員で質疑・応答を実施する。なお、学位論文の審査を担当する主査1名および副査2名が特に行う。

<博士後期課程>

遺産理論講座、環境・遺産マネジメント講座、環境デザインテクノロジー講座の教員が、それぞれ研究室を有し、研究室に所属する学生の指導を行う。

【学位論文審査体制】

<修士課程>

学位論文評価基準として5つの評価項目（1. 研究の課題設定、2. 先行研究の理解と提示、3. 研究方法の妥当性、4. 論証方法や結論の妥当性と意義、5. 論文の形式・体裁）を、修士作品評価基準とし

て5つの評価項目（1. 作品の課題設定、2. 先行作品・先行研究の理解と活用、3. 作品の制作方法と技術力、4. 作品の表現力と意義、5. 作品説明書の形式・体裁）を設け、修士論文及び修士作品の審査の際に、審査委員がそれぞれの観点から評価し、最終試験の可否を判定する。

<博士後期課程>

学位論文評価基準として5つの評価項目（1. 研究主題(テーマ)の意義、2. 先行研究の理解と提示、3. 研究方法の妥当性、4. 論証方法や結論の妥当性と意義、5. 論文の形式・体裁）を設け、博士論文審査の際に、審査委員がそれぞれの観点から評価し、最終試験の可否を判定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み】

<修士課程・博士後期課程>

学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかを環境・遺産デザインコースの下に設置するコース教務ワーキングにおいて検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

<修士課程>

- ・「発展」期の評価：学びの集大成である修士研究を対象とし、修士2年の秋学期に行う中間発表会で進捗の確認を行う。
- ・「統合」期の評価：修士研究について、主査・副査による審査と合わせて内容を適切な方法で発表したうえで、総合的に審査する。

<博士後期課程>

- ・「発展」期の評価：学生は、毎年、学府に研究経過報告書を提出し、学務専門委員会において進捗を確認する。
- ・「統合」期の評価：学びの集大成としての博士研究を、主査・副査による審査と合わせて内容を適切な方法で発表したうえで、総合的に審査する。

3) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

求める学生像

<修士課程・博士後期課程>

環境・遺産デザインコースは、以下の学生を求めている。

1. 環境・遺産デザインコースの教育を受けるための基礎学力を持っていること。
2. 環境・遺産デザインに関連する専門分野に関心と理解があること。
3. 主体的な勉学と自己啓発に積極的であり、高い倫理意識を有していること。
4. 環境・遺産デザインを基礎とした高度職業人・研究者・指導者等を目指していること。

グローバル・アーキテクト・プログラムの履修要件は、次の通りである。

- ・九州大学芸術工学部環境設計学科を卒業、又は他大学の建築系学科を卒業し環境設計学科の教育学習目標を達成していると認められた者、かつ
- ・大学院芸術工学府芸術工学専攻環境・遺産デザインコース修士課程又はデザインストラテジー専攻修士課程に在学し、芸術工学府長が許可した者

入学者選抜方法

<修士課程・博士後期課程>

入学者選抜方法は、下記の大学院入試のサイトのウェブで最新情報を確認すること。
<https://www.design.kyushu-u.ac.jp/admission/>

